

『ゲーテンベルク聖書—世界初の印刷聖書—』 特別展示を振り返って

まつもと かずこ
松本 和子

(理工学メディアセンター事務長 2012年10月まで三田メディアセンター課長)

1 3年ぶりの展示

2012年1月26日の学内のゲーテンベルク聖書委員会、開館100年記念式典に合わせたゲーテンベルク聖書(以下聖書)5日間の展示が認められた。三田メディアセンターでは、聖書のファクシミリ版を中心とした4月の定例展示の中で、4月25日(水)～28日(土)の間、聖書を特別公開することとした。

聖書の展示は2009年1月の慶應義塾創立150年記念展(於 東京国立博物館)と同年9月の丸善創業140周年記念展(於 丸善日本橋店)以来約3年ぶりで、2011年秋に新設された図書館展示室に展示できたことも喜ばしい事であった。

特別展示期間が短く、資料保存の観点から紹介できるページ数が限られるため、HUMIプロジェクトで撮影された画像を使い、手彩色のあるページでスライドショーを作成し、プラズマディスプレイで上映した。

特別公開期間中には文学部の安形麻理准教授と高宮利行名誉教授にギャラリートークを頼み、スタッフが交代で聖書の監視当番に当たった。来場者から「これは羊皮紙ですか?」「何語で書かれているのですか?」等、質問されることも多かった。

2 DMC との連携

ゲーテンベルク聖書委員会の場で、今回の展示にあたって学内組織であるデジタルメディア・コンテンツ統合研究センター(DMC)の協力が提案された。デジタル画像を使った新たな試みができないか、三田メディアセンターからのヒアリングをもとに提案されたのが、iPadによる「黄金の装飾が施されたゲーテンベルク聖書」と題された展示である。聖書冒頭のプロローグの黄金装飾をCG化し、iPadを操作することで立体的に拡大された金の装飾を見せる展示が実現した。この展示は特別展示期間に併せて行われた。

3 来館者数と反響

ギャラリートークを楽しみに来館する学生や学外者、また毎日違うページを展示したため、日参する人もおり、5日間で4月定例展示全体の約半数が来館するほどの盛況となった。同時に行った井関利明氏旧蔵のミニチュアブックの展示も人気であった。

多数の方に来館してもらえた要因には、図書館での広報に加え、教員がチラシを多数持ち帰り、講演先で紹介してくれるなど、図書館以外の方も積極的に広報に協力いただいたことが考えられる。またインターネット上のブログやツイッターでも話題になり、口コミで参加してきた人もいたようだった。以下、来館者の概要を示す。

- ◆総入場者：2816名(4月定例全期6055名)
- ◆配布資料：883部(4月定例全期1808部)
- ◆ギャラリートーク参加者
- 25日(安形先生)27名(うち学外者6名)
- 26日(高宮先生)67名(学外者多数)
- 28日(安形先生)55人(式典関係者多数)

4 式典当日の対応

28日の100年式典開催時間中は、スタッフが式典に参加できるよう、展示室の監視は警備室に依頼した。また土曜日の展示室は通常16時50分で閉室するが、この日は17時30分から18時20分まで式典参加者のため特別展覧時間を設けた。多くの参加者は式典開始前に閲覧を済ませていたため、大きな混乱はなかった。

5 今後のゲーテンベルク聖書の展示について

アジアで唯一の所蔵館であり、今回の反響の大きさを考えると、今後も定期的に公開する必要性が感じられる。資料保存の観点も考慮しながら、学生の在学中に聖書に触れる機会があるよう、3～4年に一度は展示ができるよう検討していきたい。